

刊行にあたって

口腔疾患の発症を待ち受けて治療する、これまでの場当たりの介入への反省から、2000年前後を境に予防歯科診療への比重が大きく飛躍しました。

さらに近年、口腔保健と全身の健康づくりや抗加齢医学、そして生活習慣病の発症予防・重症化予防との関係がより具体的に明らかになってきました。これに伴い、医療・歯科医療専門職、一般の方々を問わず“健康寿命の延伸”が重要な目標とされ、臓器別医療ではあるものの、それぞれの医療が概念的に一括りに集約されていくステージが訪れたように思えます。

従来の「口腔局所完結型」のパラダイムにおいては、「歯の健康、口腔の健康づくり、口腔機能の回復」までがエンドポイントとされてきました。しかし、こうした社会要請に呼応すべく、これからの口腔保健および予防歯科は、その目標を全身的な健康増進や生活習慣病の発症予防・重症化予防へと拡大し、その検査および評価指標を医科（多職種）と共有する体系へとパラダイムシフトしていくことが理想的です。

本書が扱う Dental Drug Delivery System（3DS）は、2000年に発表された専門的なハイリスクアプローチであり、口腔病原微生物叢から口腔正常細菌叢への移行手段です。ほとんどの成人が罹患しているう蝕と歯周病は、生活習慣がその背景にある感染症といえます。口腔バイオフィルムのリスクが蓄積し、少し遅れて生活習慣病へと繋がります。3DSは、口腔のバランスを欠いた微生物叢に専門的かつ根源的に介入する“治療”と捉えることができます。まさに、歯科と生活習慣病（NCDs）の共通リスク因子の抑制手段であるといえます。

このように、専門的かつ根源的なバイオフィルムコントロール法の確立はたいへん重要であり、3DSに限らず、将来的にもバイオフィルムの質的制御方法は必ず必要になると思われます。3DSはう蝕原性・歯周病原性バイオフィルムの除菌という狭い技術論にとどまらず、臓器横断的な疾患形成の予防的対策として有効です。

本書は、2009年発刊の『最新3DS 環境 う蝕ステージ ペリオステージ』をベースとしながらも、2022年までの新しい情報や内容を第一線で活躍する専門家にご執筆いただき、口腔病原微生物叢から口腔正常細菌叢への移行的制御について総合的に網羅した、時代の要請に応える素晴らしい内容に仕上がりました。

3DSの情報源として、また臨床口腔細菌学の書として歯科医療関係者、歯科の情報を求める医師、その他、多職種の方々に活用されることを願っております。

2022年新春 綾瀬市にて

医療法人社団武内歯科医院理事長

日本大学歯学部臨床教授

武内博朗